

一般社団法人 日本養護教諭教育学会 第33回学術集会 プログラム

メインテーマ：子どもたちのウェルビーイングを支える養護教諭の役割

期 日：2025年12月13日（土）・14日（日）

会 場：京都女子大学と Zoom 配信によるハイブリッド開催（一部対面のみ）

«2025年12月13日（土）»

- ◆プレコングレス（10:00～11:30）B会場 図書館交流の床 及び Zoom 配信 理事会
「現代的な健康課題に対応する養護教諭のコーディネート力について考える」
- ◆受付（11:30～）B校舎2階エントランスホール
- ◆開会（12:20～）A会場 B501講義室 及び Zoom 配信
- ◆学会長基調講演（12:30～13:10）..... 座長 後藤ひとみ（前愛知教育大学・本会理事長）
「子どもたちのウェルビーイングを支える養護教諭の役割を考える」 大川 尚子（京都女子大学）
- ◆特別講演（13:20～14:20）..... 座長 大川 尚子（京都女子大学）
「プロ囲碁棋士に学ぶメンタルコントロール術」
講師 井山 裕太（日本棋院関西総本部所属の囲碁棋士、九段、国民栄誉賞受賞）
- ◆教育講演（14:30～15:30）..... 座長 岩原 昭彦（京都女子大学）
「教育の場と子どものウェルビーイング」
講師 内田由紀子（京都大学人と社会の未来研究院教授、文部科学省中央教育審議会委員）
- ◆シンポジウム（15:40～17:40）
テーマ：「子どもたちのウェルビーイングを支える養護教諭の役割—学校の福祉的役割に注目して—」
コーディネーター 浅田 知恵（愛知教育大学）、上原 美子（埼玉県立大学）
シンポジスト 柏木 智子（立命館大学産業社会学部教授）
名田 早苗（滋賀県湖南市健康福祉部障がい福祉課発達支援室室長）
上田 智也（神戸市福祉局相談支援課こども・若者ケアセンター相談・支援窓口 担当課長）
- ◆独立行政法人日本スポーツ振興センターによる制度説明（17:50～18:00）
- ◆情報交換会（18:30～）ハイアットリージェンシー京都ガーデンホール

«2025年12月14日（日）»

- ◆受付（8:30～）B校舎2階エントランスホール

◆一般演題発表

< C会場 E103講義室 及び Zoom 配信 >

口演発表 I（9:00～10:00）..... 座長 西岡かおり（四国大学）

【養護実践（保健室経営）】

C—I-1 A県下私立学校における保健室の備品等の整備状況について—令和3（2021）年改定の基準をもとに—

○加藤 晃子（学校法人滝学園滝中学校滝高等学校）、他

C—I-2 「デジタル保健室」の共創プロセスとその実践的意義

○山村 和恵（立命館守山中学校・高等学校）

C—I-3 小学校に勤務する養護教諭の保健室登校に対する認識と困難感

○天満 花子（新見公立大学大学院）、他

口演発表Ⅱ（10:05～10:45）……………座長 松崎 美枝（九州看護福祉大学）
【養護実践（保健管理）】

- C-II-1 健康上配慮を必要とする児童の保健管理について（第一報）一定義と判断基準のレベルの検討—
○家坂 玉緒（山形市立第一小学校）、他
C-II-2 健康上配慮を必要とする児童の保健管理について（第二報）—養護教諭の専門性に基づく判断基準—
○家坂 玉緒（山形市立第一小学校）、他

< D会場 E102講義室 及び Zoom配信 >

口演発表Ⅲ（9:00～10:00）……………座長 斎藤ふくみ（九州女子短期大学）
【現職教育】

- D-I-1 幼稚園及び認定こども園において養護教諭に求められる能力に関する研究
—先行研究及び文献による検討— ○山田悠帆里（兵庫教育大学研究生）、他
D-I-2 生成AI導入に向けた養護教諭の利点・懸念・必要スキル—経験年数別の傾向から—
○安達有梨（桃山学院大学）、他
D-I-3 養護教諭が求めるヤングケアラー・虐待対応研修の方向性—研修会の事前調査の結果から—
○辻京子（四国大学）、他

口演発表Ⅳ（10:05～11:05）……………座長 松永 恵（茨城キリスト教大学）

【養成教育 / 原論】

- D-II-1 教育実習における困難さと不安、レジリエンス、ストレス対処法との関連
○山本訓子（関西福祉科学大学）
D-II-2 生涯の Well-being、幼児・児童・生徒・学生の発育発達教育「養護学」に関する研究
○鎌田尚子（元女子栄養大学）、他
D-II-3 「養護教諭の倫理綱領」と NASN（米国スクールナース学会）の倫理綱領についての一考察
○面澤和子（弘前大学名誉教授）

口演発表Ⅴ（11:10～11:50）……………座長 加藤 晃子（滝学園滝中学校滝高等学校）

【その他（不登校 / 病気の理解）】

- D-III-1 中学生時の不登校傾向と部活動所属・適応感および性格特性との関連
—大学生を対象とした回顧法による検討— ○中原飛鳥（北翔大学）、他
D-III-2 小児から成人医療への移行における保護者の視点—神経発達症のある子ども2例を対象に—
○田淵裕子（兵庫県立大学大学院看護学研究科）、他

< E会場 E101講義室 >

口演発表VI（9:00～10:00）……………座長 井澤 昌子（名古屋学芸大学）

【養護実践（健康教育）】

- E-I-1 栄養教諭と養護教諭の食に関する指導の実践研究—栄養教諭未配置校に焦点を当てて—
○野中史菜（八雲町立野田生中学校）
E-I-2 認知行動療法の視点を踏まえた保健指導の効果—生活習慣の変化に着目して—
○坂元泉（福山市立駅家南中学校）、他
E-I-3 感情の言語化に着目した援助希求的態度の育成—授業実践を通して—
○浅生範子（名古屋市立瑞穂ヶ丘中学校）、他

口演発表VII（10:05～11:05）……………座長 留目 宏美（上越教育大学）

【その他（性）】

- E-II-1 性教育の手引書から見た指導の現状と課題
○吉村知容（四天王寺大学）、他
E-II-2 学校におけるLGBTQ+の子どもへの支援に対する養護教諭の認識と支援の実際
○須貝あやめ（新潟市立桜が丘小学校）、他

- E-II-3 中学生の月経前症候群の実態と日常生活への影響 —中学生へのアンケート調査から—
 ○滝川つぼみ (四国大学)、他
- 口演発表Ⅷ (11:10~11:50) 座長 荒川 雅子 (東京学芸大学)
 【その他 (授業方法)】
- E-III-1 PUSH コースを用いた一次救命処置に関する教育の実践とその効果
 ○田島 典夫 (小牧市消防本部)、他
- E-III-2 児童・生徒間のヘルスコミュニケーションを含むアクティブ・ラーニングの実施による行動変容の有無: スコーピングレビュー
 ○森田 結衣 (新潟大学 養護教諭特別別科)、他

- <F会場 E104講義室>
- ポスター発表 I (9:00~10:00) 座長 岩崎 和子 (北海道教育大学)
 【養成教育】
- P-I-1 教室での実習を通じて学ぶ医療者との連携に関する教育プログラムの実践
 ○大島 紀人 (東京大学)、他
- P-I-2 救急処置における心理的ストレスに対処するための予防教育プログラムの検討
 —現職養護教諭へのインタビュー調査を基に—
 ○湯原 裕子 (聖徳大学)
- P-I-3 養護教諭の多職種連携コンピテンシーの育成と評価方法
 —多職種連携ループリック作成の試み—
 ○宇佐美尋子 (聖徳大学)、他

- ポスター発表 II (10:05~11:05) 座長 長谷川法子 (京都府総合教育センター)
 【その他 (学校・子どもの理解)】
- P-II-1 へき地・小規模校に勤務する養護教諭の職務に関する研究 (第1報)
 —文献レビューによる養護実践の特徴—
 ○湯原 裕子 (聖徳大学)、他
- P-II-2 中学生におけるスポーツクラブ及び運動部活動頻度と身体活動の関連
 ○進藤 美沙 (山口市立大内中学校)、他
- P-II-3 若年女性の太りやすさの自己認識に着目した養護教諭の役割に関する一考察
 ○杉田 彩恵 (京都女子大学)、他

- ポスター発表 III (11:10~11:50) 座長 妻鹿 智晃 (帝京短期大学)
 【現職教育 / 養護実践 (保健室経営)】
- P-III-1 男女複数配置校における養護教諭の役割期待に関する研究 —男子生徒・女子生徒の比較から—
 ○岡本 和浩 (福山平成大学大学院)、他
- P-III-2 実践研による「養護教諭のための危機管理ジレンマカード」の作成
 ○黄木寺由貴 (尾張旭市立旭中学校)、他

- <C会場 B103講義室 及び Zoom配信>
- ◆研究助成金研究発表① (10:50~11:20) 座長 奥田紀久子 (徳島大学)
 「養護教諭養成担当教員の育成プログラムの開発」
 ○外山 恵子 (名古屋薬大学中学校・高等学校)、他
- ◆研究助成金研究発表② (11:20~11:50) 座長 亀崎 路子 (杏林大学)
 「子どもたちのウェルビーイングを高める福祉的役割 —養護教諭の職務から見た現状と課題—」
 ○上原 美子 (埼玉県立大学)、他
- ◆ランチョンセミナー (12:00~12:50) <対面 及び Zoom配信>
- ①D会場 E102講義室 座長 西岡 伸紀 (京都女子大学)

「保健室へのサポート 教育と医療をつなぐこころの学校健診～寝る子はこころも育つ～」

講師 土生川千珠（独立行政法人 国立病院機構 南和歌山医療センター 小児アレルギー科 医長）

②E会場 E101講義室 座長 井上 文夫（京都女子大学）

「子どもの成長の軌跡をシームレスに見守る～成長曲線が示す正しい理解～」

講師 幸道 和樹（こうどう小児科）

◆総会報告（13:00～13:25） C会場 E103講義室 及び Zoom配信

◆「養護学の構築にむけたプロジェクト」報告（13:30～14:00）

C会場 E103講義室 及び Zoom配信 座長 塚原加寿子（新潟青陵大学）

「養護学の構築にむけたプロジェクト」第二次報告 —養護学固有の特性の明確化に向けて—

○中森あゆみ（公立小学校 養護教諭）、○山本 美和（国際医療福祉大学）、他

◆ワークショップ（14:10～16:00）

①C会場 E103講義室 及び Zoom配信

「養護教諭こそ ICT をフル活用！業務改善 Tips 紹介セミナー」

講師 養護教諭インフルエンサー にこ

②D会場 E102講義室（対面のみ）

「産学連携で繋ぐ健康教育への取り組み 京都女子大学×ワコールの連携授業」

講師 小坂 昌弘、上地 朋子（株式会社ワコール コミュニケーションデザイン部メディアプランニング課）

③E会場 E101講義室（対面のみ）

「爪と心の関係 一爪の切り方で自己肯定感を育む—」

講師 山下いづみ（株式会社 Handred. 爪活コーディネーター協会）

【学術集会に面で（会場で）参加される方へのご案内】

○交通

JR 京都駅八条口・四条河原町からプリンセスラインバスで約15分です。

スクールバスではなく公共の路線バス（片道230円：現金のみ）です。

* プリンセスラインバス乗り場⇒ <https://www.kyoto-wu.ac.jp/access/>

* プリンセスラインバス時刻表⇒ <https://www.kyoto-wu.ac.jp/access/bus.html>



○昼食

大学近辺には飲食店やコンビニがありませんので、12月13日（土）は、昼食を各自ご準備ください。

12月14日（日）はランチョンセミナーをお申し込みください。ランチョンセミナーの参加は、会場の都合上人数制限がありますので、必ず事前にお申し込みください。

○ワークショップ

- ・2日目には3つのワークショップ、オリジナルツアーを予定しています。事前申込にて選択してください。 オリジナルツアー以外は当日のご参加も可能です。
- ・ワークショップ①「養護教諭こそ ICT をフル活用！業務改善 Tips 紹介セミナー」に参加される方は、可能な範囲でパソコンをご持参ください（スマートフォンでも参加は可能です）。会場ではEduroamを使用できます。

Eduroamに加入している大学等から来場する方は、各大学の情報部門にて予めご確認ください。

それ以外の方は、スマートフォンのデザリング等をご利用ください。

○託児

本学術集会では託児利用が可能ですが、お申込みはできる限り早め、11月中にはお願いします。

●関連行事

* 2025年12月12日（金）16:00～17:30に、京都女子大学図書館（交流の床）で第5回（2025年度）定時総会（代議員総会）を開催します。また、同日18:00から新旧の理事、評議員、監事、委員会委員の情報交換会を行います。

◇◇◇◇ 第33回学術集会のプレコングレス ◇◇◇◇

「現代的な健康課題に対する養護教諭の
コーディネート力について考える」の
開催について(ご案内)

理 事 会

<開催趣旨>

ご承知のとおり、2008年1月の中央教育審議会（以下、中教審）答申において、子どもの現代的な健康課題の対応に当たり、学級担任等、学校医等やスクールカウンセラーなど校内における連携、医療関係者や福祉関係者など地域の関係機関との連携が必要となる中でコーディネーターの役割を担う必要があると述べられました。

この提言に先駆けて、本学会では2004年3月発刊の学会誌第7巻第1号において、特集「連携すること、コーディネートすること」を企画し、2007年3月発行の「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集<第一版>」では、養護教諭にとって重要な意味をもつ用語として「連携」と「コーディネート」を取り上げました。さらに、2022年9月発刊の学会誌第26巻第1号で、特集「他職種連携から多職種連携へ」を企画するなどチームとしての学校づくりにむけた発信を行ってきました。

しかしながら、定義したコーディネートの意味が広く理解され、様々な場面で養護教諭が迷いなくコーディネート力を發揮する際に役立っているかと言えば、検討すべき課題が残されていると考えます。そこで、本プレコングレスでは、具体的な事例をもとに意見交流を行い、改めて養護教諭のコーディネート力にかかる課題等について考えたいと思います。

<開催日時・場所>

○2025年12月13日（土）10:00～11:30

○京都女子大学 図書館（交流の床）

○対面にて実施、Zoom参加も可

<進め方>

今回の運営は広報委員会が担当します。趣旨説明の後、子どもの健康課題にかかる具体事例について解説し、グループ別の協議を行います。事前申込みなしで、会員外の方も参加できます。是非、お誘い合わせの上でご参加ください。

**第5回(2025年度)定時総会(代議員総会)
の開催について(予告)**

理事長 後藤ひとみ

本学会の定款第22条の規定により、下記日時にて定期総会を開催いたします。代議員の皆様には、会日の2週間前までに招集通知等を送らせていただきます。ご多用のことと思いますが、ご出席の程をお願いいたします。

○開催日時：2025年12月12日(金)16:00～17:30

○開催会場：京都女子大学 図書館（交流の床）

○開催方法：現地参加(但し事情のある方はオンライン参加を可とする)

○主な議事：2024年度事業報告、2024年度決算報告、2025年度事業計画案、2025年度予算案、2025年度理事の再任、2025年度・2026年度監事の選任、第35回学術集会開催地等

●なお、会員を対象として、第33回学術集会の2日目13時からC会場で20分程の「総会報告」をいたします。オンライン等の詳細は学会HPをご覧ください。

**養護学の構築にむけたプロジェクト
について(報告)**

■ 2024年度第二次計画と進捗状況について

代表 德山美智子（元大阪女子短期大学）

本プロジェクト第二次の目標は、養護学固有の特性を明確にするため、養護学の体系的枠組み（全体像）の整理を継続し、捉える視点（独自性）の整理をさらに発展させることです。メンバーを2つのグループに分けてスコピングレビューを行い、今年度は先行研究のレビューに資する知見を得るため、研修会を企画しました。会員による養護学構築にむけた議論を活性化するため、当該研修会はプロジェクトメンバーに限らず、全会員に広報し、参加を募りました。これらの目標に向けた研究および研修の状況は、以下のとおりです。

■ 研究の状況について 留目 宏美（上越教育大学）

先述した目標の達成を目指し、ワーキンググループ1は、「養護学」の体系的枠組み（全体像）の整理を継続すること、ワーキンググループ2は、「養護学」を捉える視点（独自性）の整理を発展させることを任務としました。

1 グループ ○外山恵子（名古屋薬大学中学校・高等学校）、雨宮麻衣子（児童養護施設二葉むさしが丘学園）、籠谷恵（杏林大学）、齊藤久子（嘉麻市立稲築東義務教育学校）、中森あゆみ（公立小学校養護教諭）、留目宏美（上越教育大学），オブザーバー：徳山美智子（元大阪女子短期大学）

2 グループ ○上原美子（埼玉県立大学）、鎌田尚子（元女子栄養大学）、北口和美（元大阪教育大学）、鈴木雅子（西九州大学）、土屋綾子（城西国際大学）、中村朋子（元茨城大学）、山本美和（国際医療福祉大学）、オブザーバー：徳山美智子（元大阪女子短期大学）

既存の知見を概観・整理するとともに、リサーチギャップを検討すべく、鋭意分析に取り組んでいます。分析結果は第33回学術集会の2日目に報告させていただきます。第二次の研究成果をご高覧いただける直近の機会となり

ます。多くの会員の皆様から様々なご意見を頂戴できれば大変ありがとうございます、何卒宜しくお願ひいたします。

■研修会の開催について

土屋 綾子(城西国際大学)
山本 美和(国際医療福祉大学)

第1回研修会は、9月27日(土)にオンラインで開催しました。京都大学大学院教育学研究科教授の松下佳代氏を講師にお迎えし、「学問分野についての共通理解をどうつくるか—教育学分野の参考基準づくりの経験からー」を演題にご講義いただきました。参加者からは「教育学の固有の特性をどのように判断したか」「学術会議において学問分野として認められるために、学術会議にその学問分野の会員が必要か」などの質問がなされ、「養護学」の学問構築にむけた認識を深める機会となりました。プロジェクトメンバーを含めて51名の参加があり、事後アンケートには31名の参加者より回答がありました。回答者のうち、学問の捉え方や考え方を「非常に」または「ある程度」理解できた者は30名(96.8%)、養護学の学問構築にむけたプロセスを「非常に」または「ある程度」理解できた者は28名(90.3%)でした。事後アンケートからは、養護学構築にむけて、教育という場に根ざした養護の理論化・実践知の体系化、諸学問・他分野との比較などが必要であり、これらを踏まえた参考基準の整備も重要な課題の一つであることが示唆されました。

第2回研修会は、10月4日(土)に「養護学固有の特性の探究—実践と学問の省察・往還から養護の本質に迫るー」をテーマに、オンラインでワークショップ形式にて実施しました。参加者はプロジェクトメンバーを含めて26名で、4グループ(プロジェクトメンバーがファシリテーターと記録担当)に分かれ、養護教諭の実践における大切な軸や判断基準・専門性、葛藤などを話し合いました。その後、全体会で報告・共有し、プロジェクト代表が総括を行いました。参加者からは、自己の実践や学問を省察することで、「養護」についての気づき・意味づけを深める機会となりましたとの報告があり、プロジェクトは、参加者の実践知の対話・交流を通して、実践知を学術的概念へと昇華させる手がかりを得ることができました。事後アンケートからは、養護学構築には、教育・心理・看護・福祉などの関連諸学の統合、看護等の近接領域との差別化、保育・福祉分野の含有可能性的検討に加え、養護教諭自身の実践や養成教育に携わる人々がそれらの学問を横断的に捉える視点の必要性が指摘されました。

研修会を通していただいたご意見等は今後の取り組みの参考とさせていただき、その詳細については学会誌第29巻第2号において報告いたします。

委員会委員の紹介(続)

ハーモニー第97号で①総務委員会と②編集委員会の委員紹介をしました。残る2委員会委員を紹介します。

③学術委員会

委員長・学術担当常任理事 鈴木 裕子

学術委員会は、理事2名と現職養護教諭4名を含む7名で構成しています。養護教諭教育に関わる学術研究推進をめざして、研究助成金研究や投稿奨励研究の選定・支援をはじめとした会員への研究活動支援を行っています。また、学術集会実行委員会に対する理事会からの申し送りや一般演題区分の明確化による養護教諭教育の領域の周知などに協力しています。

学術委員になって

稲垣 杏菜(愛知県立安城高等学校)

この度、学術委員を務めることになりました。学術委員の仕事は論文の書き方や学術集会発表までの支援など初めてのことが多く、自分の力量不足を感じることもありますが、頼りになる学術委員の先生方と協力しながら務めていきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

学術委員として、新たな一步を

齋藤いづみ(横須賀市立明浜小学校)

この度、学術委員として活動する機会をいただきました。今まででは学会活動を参考に、現職の養護教諭として充実した日々を過ごしてまいりました。今後は、微力ではありますが、養護教諭教育の発展に少しでも貢献できるように活動していきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

養護教諭の実践と研究をつなぐ

津田 聰子(中部大学)

この度の学術委員への拝命に際し、皆様のご指導に深く感謝申し上げます。変化の激しい社会を生きる子どもたちの生活と健康を守るために、養護教諭の実践知を学術的根拠へ結実させ、現場と研究の往還を担う役割に精進してまいります。

ご挨拶

星川 裕美(山形大学附属中学校)

この度、学術委員を拝命いたしました。現職の養護教諭として、理論と実践を結びつけながら学びを重ねています。これまでの論文執筆の経験を通して、学び続けることの大切さを実感しています。その経験を踏まえ、得た学びを大切に、微力ながら学会の発展に尽力してまいります。

④広報委員会

委員長・広報担当常任理事 浅田 知恵

広報委員会は、学会ホームページの管理・更新や情報発信などの会員への広報活動を担当し、理事3名と代議員1名を含む7名で構成しています。第33回学術集会のプレコングレスの運営や、会員の皆様との情報共有や意

見交流の場づくりの企画についてなど、委員全員で話し合いながら取り組んでいます。

交流の機会を創出

上原 美子(埼玉県立大学)

このたび広報委員を拝命いたしました。学会ホームページおよびメール等の媒体を通じ、教育行政に関する最新情報を会員の皆様に向けて発信してまいります。また、第33回学術集会におけるプレコングレスの運営を担当させていただきましたこととなりました。実りある議論と交流の機会を創出できるよう尽力いたします。会員の皆様とお目にかかることがあります。心より楽しみにしております。

学び続ける

大庭 玲菜(横浜市立藤が丘小学校)

初めて学会の委員として活動します。これまで自身の養護教諭の資質・能力の向上を目指し、また、組織の中で力を発揮できるように自治体主催の研修等に参加していました。今後は、現職としての感性を生かして、会員の皆様のよりよい学びや交流活動を目指して活動に取り組みます。どうぞよろしくお願ひいたします。

広報を通してつながりを

黄木寺由貴(尾張旭市立旭中学校)

初めて広報委員を務めることになりました。学会の取組の発信や会員の皆様との情報共有が充実できるよう努めたいと思います。多くの方と学びを共有し、つながりを広げていけるよう精一杯取り組みます。どうぞよろしくお願ひいたします。

学会が身近な存在となるように

妻鹿 智晃(帝京短期大学)

若輩者ながら広報委員として学会運営に携わらせていただきましたこととなりました。養護教諭の質保証において、本学会が担う役割は非常に多大であると感じています。養護教諭に関わる多くの方々が本学会の存在を身近に感じ、自己研鑽していただけるよう、各種広報活動に尽力いたします。

..... 理事会の議事について(報告)

総務担当常任理事 塚原加寿子

ここには審議事項のみを掲載しました。議事録の詳細は、学会誌第29巻第2号に掲載いたします。

<2024年度第4回理事会>

1. 日 時：2025年6月26日(木)19:00～21:36
 2. 場 所：Webシステムにて開催
 3. 出席者：理事15名(欠席1名)、監事2名
- 1) 第5回(2025年度)定時総会(代議員総会)
の開催日について

- 2) 代議員の勤務先異動によるブロック変更後の扱いについて
- 3) 「名誉会員の推薦に関する内規」の改正等について
- 4) 名誉会員の推薦について
- 5) 「養護学の構築にむけたプロジェクト」の計画について
- 6) 第33回学術集会(京都)における理事会主催のプレコングレス等の企画について
- 7) 第34回学術集会(愛知)の開催について

<2024年度第5回理事会>

1. 日 時：2025年9月26日(金)19:00～20:38
 2. 場 所：Webシステムにて開催
 3. 出席者：理事16名、監事2名(欠席なし)
- 1) 「代議員及び役員候補者の選出に関する規程」の一部改正について
 - 2) 第5回(2025年度)定時総会(代議員総会)の議事項目について
 - 3) 監事の選任について
 - 4) 第35回学術集会(2027年)の開催地について
 - 5) 第33回学術集会(京都)の開催プログラム等について
 - 6) 第33回学術集会における理事会主催のプレコングレスの企画について
 - 7) 2025年度助成金研究の募集結果について
 - 8) HPへの公表資料について
 - 9) 国際文献社との次年度契約等について

事務局からのお知らせ

総務担当理事・事務局長 加藤 晃子

会員の皆様には、平素より学会運営にご理解とご協力を賜り深く感謝いたします。

- 2025年度(会計期間は2025年10月1日から2026年9月30日まで)の年会費振込票をお送りしていますので、早めの納入をお願いいたします。
- 学会誌第27巻第2号までの巻頭言、特集、研究論文、学術集会企画、要望書等を学会HPにアップしました。
- 学会誌掲載論文のJ-stageへの掲載は作業中です。少々お待ちください。

編 集 後 記

京都市での第33回学術集会の開催が近づいてまいりました。尊敬する先生方、大学時代の恩師、職場の元同僚にお会いできるのも楽しみです。また、新たな知識や仲間との出会いにも心躍ります。思い切り満喫できるように、計画的に仕事をして、体調を万全にして行きましょう。

(山本 訓子、荒川 雅子)